

ブッダは、城を抜け出して訪ねた田舎で、白髪の老人に出会った。その姿の中に彼は自分の運命を悟り、人間の全てを引き受けることを選んだ。他の人々が老いをはぐらかすのとは違っていた。

私たちは老いが近づくと、死よりもよいと考える。しかし、遠くには死が見えている。若いときや全盛期にいるとき、自分自身が老いたときの棲家になると考えず、自分は死をないものとする。老いが災難のように前方にぼんやり見えてくると(若さをよく保っていると考えられる人々の間でさえ)、加齢は明らかな肉体的な衰えをもたらす。その衰えは他の動物と違って、全体的な変化を被るという形で現れる。私たちは老いが自分に起きる瞬間まで、それは他人に影響を与えるものだとしか考えない。

私たちはごまかしは止めなければならない。年老いた人の中に未来の自分を悟らなければならない。もし私たちが自分のすべてを引き受けるなら、それをしなければならぬ。そのとき、私たちは晩年の惨めさに黙って従うことはもはやなくなるだろう。



ブッダは、たまたま出会った老人の姿で老いを知り、自分の運命を悟った。そして、人間の全てを引き受けることを選んだ。他の人々が老いをはぐらかすのとは違っていた。

私たちは若いときや全盛期にいるとき、自分自身が老いたときの棲家になると考えない。そして、老いが自分に起きる瞬間まで、それは自分ではなく他人にだけ影響を与えるものだと考える。しかし、老いが前方にぼんやり見えてくると、加齢は明らかな肉体的な衰えをもたらす。その衰えは他の動物と違って、全体的な変化という形で現れる。

ごまかすことは止めよう。私たちは年老いた人の中に未来の自分を悟らなければならない。将来の自分を知ることで今の自分を知ることができるからだ。もし私たちが自分のすべてを引き受けるなら、老いを直視しなければならない。そうすれば、私たちは老いに無関心でいられなくなり、晩年の惨めさに黙って従うことはなくなるだろう。